



サンタ白書2016 発刊記念イベント 2DAYS

～サンタ白書から見てきた、子育て家庭のクリスマス事情～

11月23日(水・祝) 14:00～15:00
11月24日(木) 19:30～21:45
ヤフー本社 LODGE 社会起業大学



サンタ新聞

2016.6
▼
2017.5



WAM助成
独立行政法人福祉医療機構
「WAM助成」助成事業



目次

- P2 代表理事よりご挨拶
- P3 NEW TOPIC & メディア掲載
- P4 全国サンタ活動結果レポート
- P5 「どんな人がサンタになるの？」座談会
- P6 熊本に笑顔を! 2万人のサンタさん
- P8 日本における“見えない貧困”の現実
- P9 貧困家庭へ届けよう「ルドルフ基金」
- P10 “思い出不足”の子ども達
- P11 保護者からの声～ルドルフ基金～
- P12 進化したネパール支援! SMDプロジェクト
- P13 ふくしま生き×活きキッズツアー
- P14 世界初の実態調査「サンタ白書」発行
- P15 2016 年度 収支報告
- P16 NPO応援団「TEAMトナカイ」
- P18 チャリティーサンタが届ける「全国へ&未来へ」2つの手紙
- P19 【感謝】ご寄付を頂いた皆さまのご紹介

サンタ新聞 2016年6月～2017年5月 平成29年6月発行

団体名 NPO法人チャリティーサンタ
住所 東京都台東区池之端2-4-16 305
特定非営利活動法人チャリティーサンタ
TEL 03-6000-0088

編集 清輔夏輝、山田立子、城田正樹、青山恭平
制作 杉山環、松林早紀
デザイン キューブ平野直子

ウェブサイト <http://www.charity-santa.com/>
フェイスブックページ <https://www.facebook.com/charity.santa>
問い合わせ info@charity-santa.com

「私はサンタにはなれないけど、物流という仕事を通じた こういう形なら応援させてもらえと思いましてね。 ここだと場所はいくらでもありますから! ハッハッハ!」

活動を開始して間もなく10年。団体で管理する「サンタクロースの衣装(コスチューム)」は、年々増え続け、合計1000着以上を管理しています。当初は「自宅の押入」でよかったものが「部屋」を占拠するようになり、「倉庫(メンバーに無理を言って無料のもの)」を使うようになり…と規模が大きく、年々大変な状況になってきていた「衣装の管理問題」。その問題に対して、西濃運輸でおなじみの「セイノーホールディングス株式会社」さんが協力していただけることになりました! なんと「年間の管理」と「全国各地への配送」の2つの面で応援いただきます。これまでの費用、所要時間が大幅に削減される予定です。冒頭の言葉は、木更津店の支店長さんが最後に話してくれたお話でした。本当に気持ちの良いご協力、ありがとうございます! チャリティーサンタの活動は、様々な方の応援で成り立っています。「何ができるかわからないけど、応援したい」というお気持ちがあれば一度お気軽にお問い合わせくださいね。



左から 西濃運輸 木更津支店 葛岡さま、北本さま。CS事務局 清輔、城田。(撮影:セイノーホールディングス 永松さま)

会社にご自宅近くに、チャリティーサンタを 応援する自販機を置いてみませんか?

自販機の売上1本ごとに金額を決めて寄付ができる「寄付型自動販売機」。2017年よりチャリティーサンタも本プログラムに選んで頂き、設置場所を大募集しています!

- ✓ 新規設置、既存の置き換えは無料!
- ✓ 商品納品、空き缶回収の手間もなし!
- ✓ 効果がある場所かどうかは、プロが判断!

※電気代のみ設置者様の負担ですが、それを考慮した上で寄付金額を決められるため、実際のリスクはほぼありません。

中小企業や小さなオフィスで、コンビニより安く金額設定すると社員にもよろこばれ、寄付もできて、みんなハッピーになるモデルです。まずは info@charity-santa.com に「寄付型自動販売機の件」と書いてご連絡をください。まずはお気軽なお問い合わせも大歓迎です!



「サンタ新聞をお読み頂き、ありがとうございます!」
私達の活動は「あなたも誰かのサンタクロース」を合言葉に様々な方々の協力を集めて、夢や想いやりを届けます。セイノーホールディングスさんのような大きな企業だけでなく、小さな事業もお仕事やご趣味との連携、場所やスペースの提供、イベントやその他日常的に告知協力など…。何か一緒にできませんか?と声をかけて頂いたら、具体的には「私達が考えます。牛を取引合々、一緒により良い社会を子ども達にプレゼントしましょう。あなたも誰かのサンタクロース!」
NPO法人チャリティーサンタ 代表理事 清輔夏輝

2016
年度

NEW TOPIC

新しい取組を
ご紹介！

2017年
3月

第8回 日本ファンド レイジング大賞受賞！



2017年
6月

熊本、浜松支部始動！ 21都道府県 28支部体制に！

2017年度も新支部始動予定です。どうぞ期待！

2017年
11月

日本初 サンタ白書 発刊！

【詳しくはP.14】

2017年
11月

ネパール支援活動 Santa Mother's Dream プロジェクト始動！

【詳しくはP.12】

2017年
12月

熊本復興プロジェクトとして、 熊本・大分の子どもたちのもとへ！

【詳しくはP.6～7】

メディア掲載

●テレビ：3番組

テレビ朝日「グッド!モーニング」、福岡放送「めんたいワイド」、くまもと県民テレビ「テレビタミン」

●新聞：16紙（掲載数20回）

朝日新聞（全国版）、毎日新聞（関東版、地方版）、産経新聞、共同通信ニュース、中国新聞、静岡新聞、岩手日報、秋田魁新報、四国新聞、長崎新聞、宮崎日日新聞、信濃毎日新聞、京都新聞、熊本日日新聞、西日本新聞、沖縄タイムス

●インターネット：多数

NHK オンライン、ヤフーニュース、ハフィントンポスト、エキサイトニュース、EC のミカタ、シノドス、毎日新聞オンライン、他各種新聞オンライン記事など

●ラジオ

サンタ白書の情報を中心に多数



2016年度もありがとうございました！

See you next christmas season! NPO 法人チャリティーサンタ理事一同



左から、理事 河津 泉、理事 佐藤 亮太、代表理事 清輔 夏輝、事務局長 城田 正樹、理事 山田 立子、理事 近藤 悠生、理事 大島 巧。
2017 年 3 月に開催した理事合宿（岡山市）にて撮影。

2017 年は活動開始から
「10 回目のクリスマス」が
やってきました。

2008 年の活動開始から 9 年目・NPO 法人化から 3 年目の 2016 年は、団体として「進化した 2 年」と言える 1 年になりました。新しい挑戦として、日本全国の子育て家庭（約 2 千世帯）に実態調査をし「日本におけるクリスマス／サンタクロース」を明らかにした「サンタ白書」の発行。また、4 月に起こった熊本地震に対してはじめて被災地向けにサンタ活動を実施し、日本中から多数の応援と反響、現地では喜びの声が相次ぎ、改めて私たちの活動に大きな手応えを感じることができました。

また、12 月 24 日は、久しぶりに週末の土曜日にあたり、例年よりも多くの社会人がサンタになる側で参加してくれました。（通常、会社勤めをしている人が参加する場合は、午後休暇を取る必要があります。2017 年は、活動開始から 10 回目のクリスマスがやってきましたが、調査研究を続けると共に、貧困家庭向けの取組の強化を進めていきます。子どもには「どこかでキミのことを見守り応援しているよ」という大人からのメッセージを、大人には「子どものため（誰かのため）に行動をするきっかけとよるこび」を、サンタクロースという切り口から行っていく予定です。サンタクロースのような人が世の中に増えることを祈りながら、日々ひとつひとつ進めて参ります。

NPO 法人チャリティーサンタ

代表理事

清輔 夏輝



11～12月の事前サンタ講習会(3時間)を経て、12月24日に半日以上を使って参加するサンタボランティアには、様々な人が参加してくれています。皆さんはどのような気持ちで参加されたのか？ サンタクロースになるってどんな感じ？ 座談会形式で思い出を語っていただきます。

まず最初にチャリティーサンタ(以下CS)の活動に参加しようと思ったきっかけを教えてください。

①自分は千葉に住んでいるのですが、昨年のクリスマス何も予定がなくて、せっかくだから東京で何かしたいなと思って。インターネットで検索してこの活動を見つけた。

②私は、以前この活動に参加したことがある知り合いに「絶対参加してみたほうがいいよ」と勧められていて。昨年のクリスマスはちょうど休日で参加しやすかったこともあり、応募してみました。

③私も知り合いの人がこの活動の経験者で、熱く進められて応募しました。私は以前、代表(注:CS代表 清輔 夏輝)のプレゼンを聞いたことがあって、それがきっかけで参加しました。サンタクロースになったみんなが電車に乗って移動している写真を見て、そういうこの活動ならではのことをしてみたいなと思いました。

――活動に参加するにあたり不安なことはありましたか？

④私の場合はインターネットでこの活動を見つけたことがきっかけだったので、「実は変な団体だったらどうしよう…」と思っていました。実際は全然そんなことなかったのですが(笑)事前に子供の名前や年齢、がんばっていることなど、訪問時の会話に必要



な情報をもらうのですが、何人か兄弟がいるご家庭だと、ちゃんと全員の情報を覚えられるかなとちょっと緊張しましたね。

⑤でも実際に活動してみると、ご家族のみなさんも本当にいい方ばかりでした。ご家庭への訪問もボランティア2人以上で行くので、道中一緒に子供の情報を反復練習したり、ご家庭への連絡内容を確認したり、助け合えるから安心でした。

――イブ当日の思い出を教えてください。

⑥当日は実際に電車やバスでの移動もありましたよね。ご家庭に向かう道中の待ちゆく人との触れ合いも楽しかったです。すれ違った子どもが「サンタさんだー」と言いながら笑顔で手を振ってくれたり。

⑦私たちの姿を見て、「サンタさんは本当にいるんだ…」とつぶやいている子もいましたよ。

⑧私は3家庭に訪問しました。あるご家庭では11歳のお子さんがいて、事前情報に「すでにサンタクロースが何者か真実を知っている」と書かれていてすごく緊張しましたね(笑)1歳の子にはサンタクロースにびびくりしたようで、泣かれてしまったりもしたのですが、移動中含めたくさんの子供たちと交流できてすごく楽しかったです。翌日まで余韻が残って、つい

⑨サンタクロースとして訪問を終えて、何か心境に変化はありましたか？

⑩サンタクロースのように、もっと人に優しく、おおらかになりたいなと思うようになりました。ベビーカー押しているお母さんを手伝ってあげたり、自然とそういう行動がとれるようになっていました。

⑪私は今62歳なのですが、他の人、特に同世代の人にこの活動をもっと広めたいなと思っています。定年を迎えて

いる人もいますし、そういう人に活動に参加してもらえたらいいなと。風貌的にもサンタクロースに近くなりそうですしね。

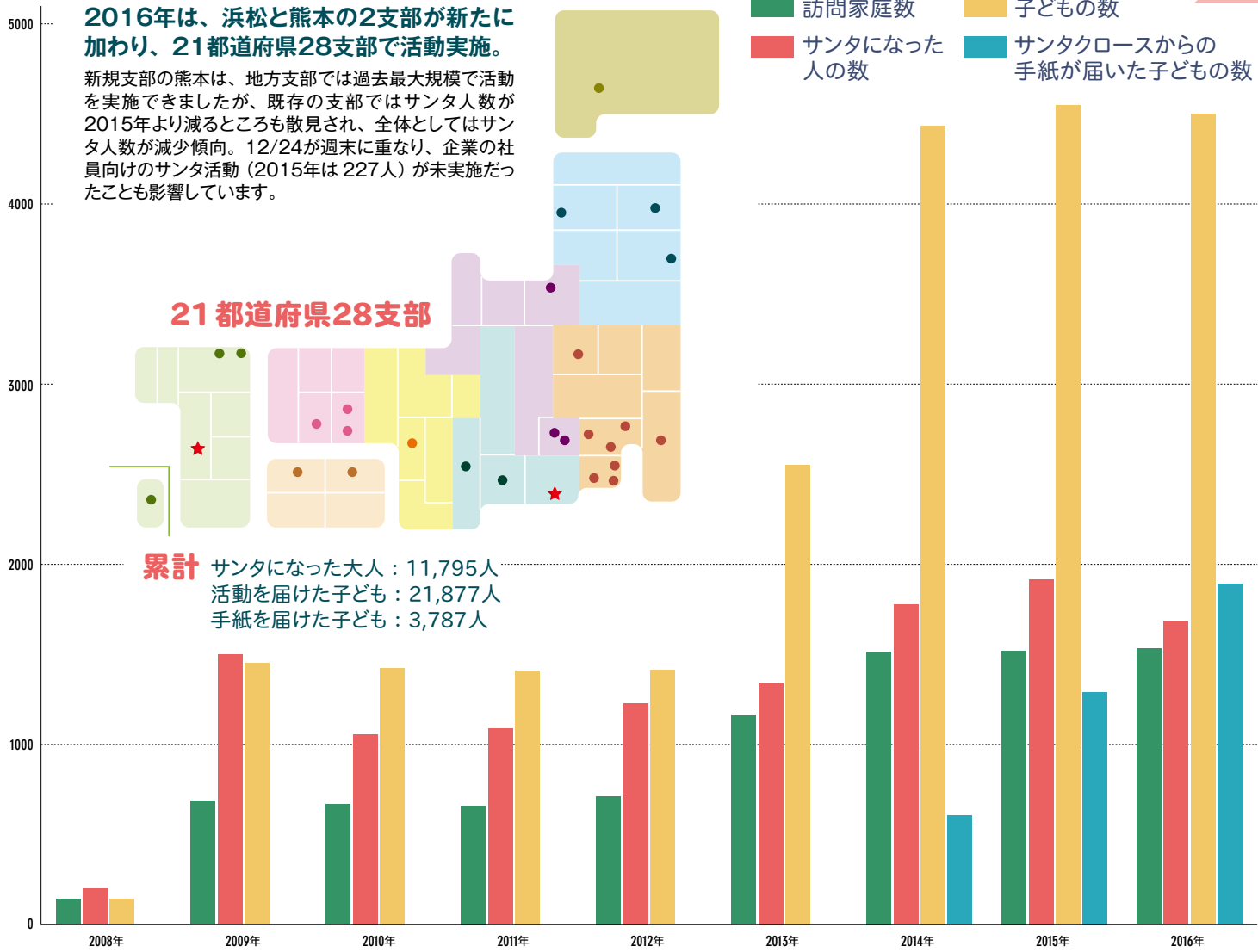
――最後にメッセージがあればお願いします。

⑫ただパーティーに参加するのは全く違って、とても良いクリスマスを経験できたと思っています。CSのスタッフの皆さんもいい方ばかりで、最後まで安心して参加できました。

⑬「子供のために何かしてあげたい」という思いで参加しましたが、最終的に自分が癒されて、幸せな気持ちで終えることができました。本当に参加してよかったと思っています。

⑭私も最初、子供を幸せにしたいという気持ちでしたが、その気持ちをあげたら、もっと大きな幸せになって帰ってきたなと感じています。まだ活動に参加していない人にも、ぜひこの気持ちを味わってみてほしいなと思っています。

2016年は、21都道府県で1,686人の素敵な大人が4,500人の子ども達に、夢と思い出を届けました。



支部	サンタ数	家庭数	こども	チャリティー金	ルドルフ基金	支部名	サンタ数	家庭数	こども	チャリティー金	ルドルフ基金
札幌支部	60	38	75	73,000	15,000	都留支部	6	4	13	8,000	7,000
秋田支部	43	44	83	79,000	22,000	浜松支部	24	31	60	54,000	11,000
盛岡支部	52	11	24	22,000	5,000	名古屋支部	95	75	259	193,000	71,000
仙台支部	56	27	45	60,000	30,000	三重支部	36	16	208	28,000	4,500
上越支部	8	5	16	10,000	6,000	大阪支部	70	100	354	138,000	49,000
群馬支部	40	20	37	34,000	14,000	岡山支部	86	62	238	129,000	35,000
北東京支部	133	111	184	216,000	65,500	津山支部	9	4	11	14,000	0
南東京支部	119	174	271	207,000	147,000	広島支部	58	57	389	138,500	31,000
多摩支部	57	44	144	93,000	39,000	香川支部	126	82	448	183,240	50,380
千葉支部	42	43	90	78,000	40,000	愛媛支部	28	13	27	24,000	5,000
横浜支部	95	91	159	126,000	75,500	福岡支部	110	145	309	172,000	91,000
湘南支部	44	32	68	54,000	19,500	北九州支部	48	40	93	80,000	23,000
相模支部	10	22	35	33,000	9,000	熊本支部	143	148	678	0	412,485
甲府支部	82	75	143	128,000	78,000	沖縄支部	6	18	39	21,000	6,000
合計	1,686	1,532	4,500	2,395,740	1,361,865						

※保育園など施設の子どもの数も含む

熊本に笑顔をもたらし、2万人のサンタクロース

2016年4月。最大震度7を記録した熊本地震。

被災地に寄せられた「**笑顔を願う想い**」が、サンタクロースからのプレゼントになった夜

誰かに支えられた経験が、別の誰かを支える原動力になる。

地震に耐えた子ども達に、一年の終わりにサンタクロースから「よく頑張ったね」と伝えたい。そんな想いから熊本復興サンタプロジェクトはスタートしました。わずかな縁を頼りに熊本へ渡り、現地の方々の声を聞きながら少しずつ準備を進めていると「今年はどこにも遊びに連れて行ってやれなかった」「お友達と離れて寂しい思いをさせている」と、子どもを想いやる余裕がなかったことを責める大人達の声が聞こえてきました。

だからこそクリスマスにはとびきりの思い出を作りたい！と願う人達の協力の輪が広がり、結果としてネット募金やクラウドファンディングの参加者も含めるとおよそ2万人の方々がこのプロジェクトを支え、成功に導いてくれたことになりました。

このプロジェクトを通して「子ども達の笑顔のために行動すること」で、地震で傷ついた大人の心も癒されていきました。いつか、子ども達が震災の年のサンタクロースの正体を知る時、こんなにも大勢の人が君を笑顔にしたいという気持ちで行動したことも同時に知ることになる。それを知った子ども達が新たなサンタクロースになる未来を夢見ています。

(熊本支援プロジェクト担当・理事 山田立子)

実施した5つのプロジェクト

Project 1 《サンタクロースからの手紙》を無償でお届け！

熊本地震で被災したほぼ全域のエリアを対象に、サンタクロースが熊本の地図を見ている特別な手紙とサンタクロースの鍵をプレゼントしました。

Project 2 チャリティー不要でサンタを自宅に呼べる！

被害の大きかった益城町を中心にサンタクロースが訪問。プレゼントはチャリティーサンタで用意しました。※用意したプレゼントはクリスマスお菓子セットです。

Project 3 道行く人も笑顔にするアーケードサンタ！

「誰もが被災者だった」からこそ、手紙やサンタ訪問を知らない人たちも笑顔にしたいという想いから、クリスマスイブ前日、熊本の城下町アーケードを舞台に約50名のサンタクロースがパレードを行いました。

Project 4 県内・県外問わずサンタクロースになれる！

支部のなかった熊本に新支部を立ち上げ活動を開始。今年度限り県外からのボランティアも参加可能としたところ、県外からも61人の参加があり、総勢143人のサンタが熊本に舞い降りました。

Project 5 プレゼント費用の寄付で「もう一人のサンタクロース」に！

プロジェクト①②に必要なプレゼント費用や活動運営費をネット募金やクラウドファンディングで募り、実際にクリスマスに熊本に居なくてもプロジェクトを資金面で支えるサンタクロースになって頂きました。

ご家庭の声



【依頼時】

今年は地震があり、子どもたちは子どもの日も避難所で過ごし遊ぶ場所も失いました。地震からの日々は下の子はサンタさんがプレゼントをくれるからと色々なことを頑張ってきました。口には出さなくても、夜泣きやおもらしなどから子どもたちへの地震の影響は大きいものと感じています。このような活動は子どもたちの心のケアに一番助けになると思います。一人の親として、心から感謝いたします。

【訪問後】

プレゼントの中身が自分の欲しかったもののドンピシャだったので「なにこれ？夢なの?!」と、とても驚いていました。腰をぬかしそうな勢いで。私にもプレゼントがあったのも「僕が言ったとおりだった!」と得意げでした。下の子3歳は、無邪気に喜んでいました。いただいたお菓子が入った袋をのぞいてはニヤニヤしていました。私にまで、暖かい言葉とプレゼントを頂き、ありがとうございます。多くの人の優しさが詰まったサンタさんの訪問に、とても感動しました。

ようこそ！サンタクロース

KKT熊本県民テレビ 報道部 記者／中村 圭一

熊本地震から1年以上経ち、全国的には報道も随分減ってきたのではないのでしょうか。私達地元の記者は、今でも地震の話題を伝えたい日はありません。

私はというと、本震の際は自宅で寝ていました。幼い息子達に妻と布団を覆いかぶせながら嘘みたいな揺れが収まるのを待ち続け、取材に出た被災地で直に目にしたのは「橋がない」「家が土砂に押し流されている」…というあまりに現実感のない光景。元通りになるのにどれだけの時間がかかるのだ…途方に暮れる私達に、やまない余震が追い打ちをかける日々が続きました。

初めてチャリティーサンタを知ったのは、地震から約半年経った頃。「地震疲れ」した人達に、一年の終わりに何かほっこりしたニュースを伝えたいと考えていた私は「これだ!」と直感したのを覚えています。

取材前に、活動の中心を担う熊本の学生達のミーティングにお邪魔して準備の様子を拝見しました。初挑戦に向けて奮闘する彼らに共通していたのは、被災した子ども達に元気になってほしいと願うまっすぐな思い。それを目の当たりにして、俄然、取材に向けた気持ちが上がったものです。…ところが! そもそも「ニュース」と「サンタ」って、食い合わせが悪い。そこに輪をかけて「プレゼントが届くまでのシステムは詳しく伝えない」「サンタに“なる”姿は映さない」などの制約が。放送直前まで調整を続ける中で、この集団がいか「子どもの夢を守る」を徹底しているのか、痛感させられました(笑)。

サンタを取材して感じた事

熊本の子子ども達を笑顔にしたいと、四国から駆けつけた30代のDサンタ。

訪問した仮設住宅では、幼い男の子がお母さんと一緒に話を聞かせてくれました。地震でタンスの下敷きになった事。頑張って逃げ出した事。自

宅が崩れ、避難生活を送っている事…。思わず男の子を抱きしめたDサンタは「来年もきっと会えるよ」と伝えます。

お母さんは、地震後の男の子の頑張りをサンタさんに認めてほしかったのでしょう。でも、男の子を抱擁するサンタを見ながら涙を流していた彼女自身もまた、必死に過ごす避難生活の苦労を誰かにわかってほしかったのでは、と思ったのです。

サンタを待っているのは子どもだけじゃない。身をもって感じた瞬間でした。

我が家のサンタはカメラを持って仮設住宅を回っていた去年のイブ。息子2人にはちゃんと「サンタからの手紙」が届きました。

この原稿は、熊本にある高原の天文台で書いています。取材を通して目にした数々の笑顔。息子達と北斗七星を眺めたこの空に、再び多くのサンタクロースが行き交う事をイメージしながら。

復興のペースは少しずつでも、熊本の観光地はずいぶん復活しています。元気な熊本の姿を確かめに、ぜひ遊びにお越しください!

●活動報告

サンタになった人の数 **143人**

届けた家庭 **150家庭 / 314人**

サンタクロースからの手紙が届いた子どもの数 **1,172人**

●活動における会計報告 (2017年5月時点)

寄付収入項目	金額	支出項目	金額
Yahoo! ネット募金による寄付	4,307,449	クリスマスプレゼント費用	2,923,595
クラウドファンディングによるご支援	420,000	業務委託費	593,000
法人様からのご協賛金	156,000	旅費交通費	429,388
法人・団体様からの寄付	37,660	広告・ポスター印刷費	76,124
個人の皆様による寄付	80,485	活動報告映像制作費	75,600
参加費収入	70,000	会議室費用・保険料	75,316
収入合計	5,071,594	支出合計	4,173,023

●今回サンタクロースを呼ぶ費用は無料にて実施しましたが、熊本のご依頼家庭より合計 134,000円ご寄付を頂きました。この寄付に関してはNPO法人チャリティーサンタのルドルフ基金（経済的な事情や家庭の事情で「プレゼントが貰えない子ども」へ、チャリティーサンタが準備したプレゼントやサンタからの手紙を届ける取組）に充てさせて頂きます。
●2017年5月以降の寄付金の使用用途としては、活動報告書の作成及び発送、報告会講演などの経費及び2017年のクリスマスに、熊本地震で被災した仮設住宅に住む子ども達へサンタクロースからクリスマスプレゼントを届ける費用に使わせていただく予定です。

12/24・25

各ご家庭へのサンタクロース訪問

12/23

熊本城下町アーケードにてサンタパレード

12/22

益城町立第一・第三保育所クリスマス会訪問

12/19

益城町立第二幼稚園クリスマス会訪問

12/18

テクノ仮説団地クリスマス会訪問

11/21・24

ヤフーネット募金、クラウドファンディング開始

10/24

仮設住宅視察

9/17~19

南阿蘇にて合宿&清掃ボランティア活動

7/25

第一回熊本支部ミーティング

6/27~30

熊本支部立上げ&支部発足

6/5

避難所での炊出し参加

5/16

先遣隊による熊本視察

4/14

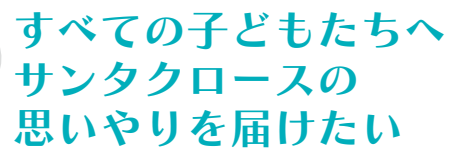
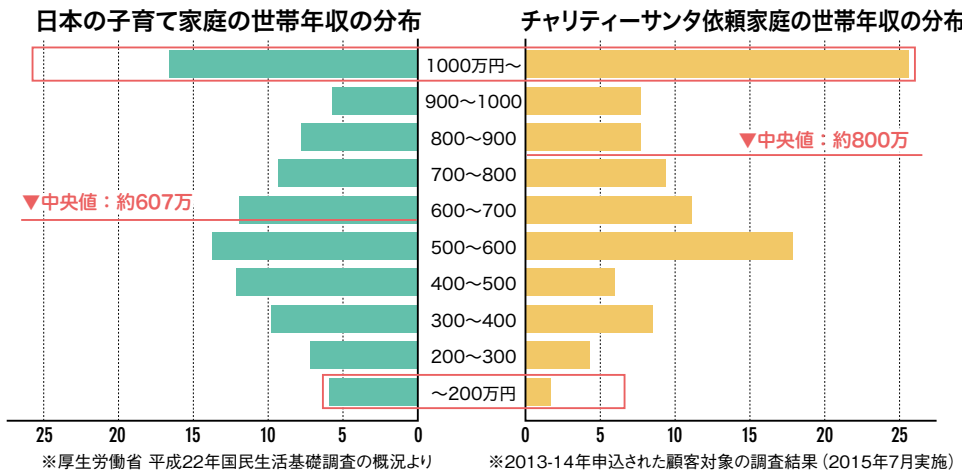
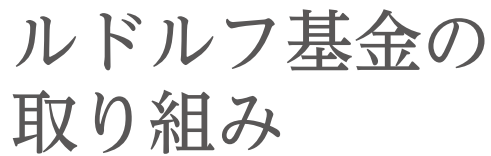
熊本地震発生

熊本復興
サンタプロジェクトの歩み

熊本復興サンタプロジェクト
Short Movie はこちら

チャリティーサンタ熊本

検索



2015年に、私たちは過去に訪問した家庭に世帯収入に関するアンケートを取りました。すると、想像以上に世帯収入の高い家庭の割合が高いことがわかりました。一方で、親や周りの人などからクリスマスにプレゼントがもらえない子どもも、世の中には存在します。私たちのサンタ活動では、そのような子どもたちにも同じようにプレゼントを届けたい。そこで、厳しい状況にいる子どもへ届ける「ルドルフ基金」を立ち上げました。ここに集まった支援金は、日本国内の困難な環境にいる子どもたちのために使用されます。



感想 4歳の息子は初めて会うサントさんに、ドキドキしながらも自然に接していました。サントさんが帰った後、プレゼントのおモチャに夢中になりながらも、最近頑張っていた水泳を褒めてくれた事、いつも見ていてくれている事

を思い出しては何度も嬉しそうに口になっています。

サンタさんという概念が自分を見守り、励ましてくれて
いると思っています。今年は勉強を頑張ることを約
束したので、この1年間が楽しみです。

私たちは、ただサンタクロースとしてプレゼントを贈るだけではありません。子どもと対面後、今年がんばったことを褒めます。そしてその後、例えば「おもちゃのお片付けがなされるかな?」など、来年がんばることを約束してからプレゼントを渡します。それだけで、多くの子どもたちはびっくりするほどサンタさんと約束したことをがんばります。次の年にまたサンタさんが来てくれると、自分ががんばっ

たことが認められたと感じ、また1つ自分の自信へと繋がります。

相対的な貧しさを感じ、「どうせ僕なんて…」。そんな風に自信をなくしている子どもたちへサントクロースの体験を届けることで、少しでも自信や自己肯定感の構築、なにより子どもたちの笑顔へ繋がっていくことを願い活動をしています。

2016年度ルドルフ基金活動実績

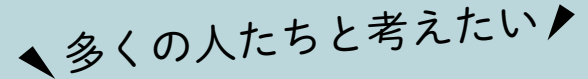
●プレゼント(お菓子の詰め合わせ)を届けた子ども
約400人

- └熊本地震：307人
- └貧困家庭：約100人

●「サンタクロースからの手紙」を届けた活動
エリア外の子ども ————— 約1,200人

- 熊本地震：1,172人
- 貧困家庭：約50人

●その他、熊本にて仮設住宅や保育所などの訪問
約400人／4施設



日本における見えない貧困の実



政府の調査によると、日本の子ども(17歳以下)の約6人に1人が「貧困状態」にあるとされています。その結果を受け、「日本に貧困の子どもなんているの?」という声が多く上がっています。

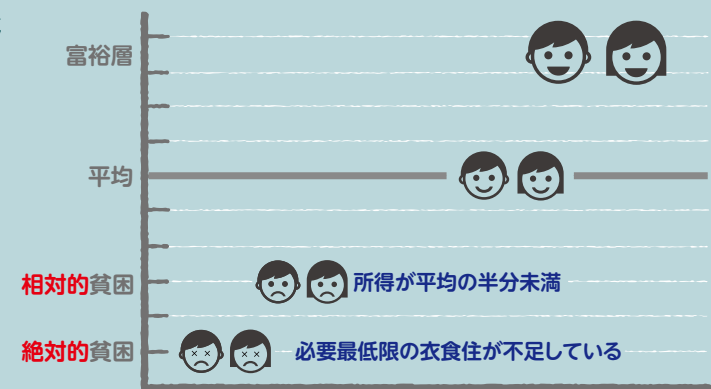
これまで主に、発展途上国の問題として取り上げられることが多かった「貧困問題」。日本ではどのような貧困があるのでしょうか。



貧困には「絶対的貧困」と「相対的貧困」という2つの概念があります。

食べ物や住むところがないなど、人間が生きるのに必要最低限の衣食住にアクセスできない層を「絶対的貧困」、それに対してその国・地域の中で普通と呼ばれる生活ができない層を「相対的貧困」と呼びます。

最初に述べた「6人に1人」とは、日本で相対的貧困状態にある子どもの割合を指します。



相対的貧困は全体の「平均」に対して半分以下の所得である状態を指します。日本を含む先進国では、その「平均」のラインが発展途上国などに比べて高いため、仮に平均以下でも、その多くが最低限の衣食住には困らない生活を送ることができます。

しかし「平均」と比較して同じものを手に入れることができない、

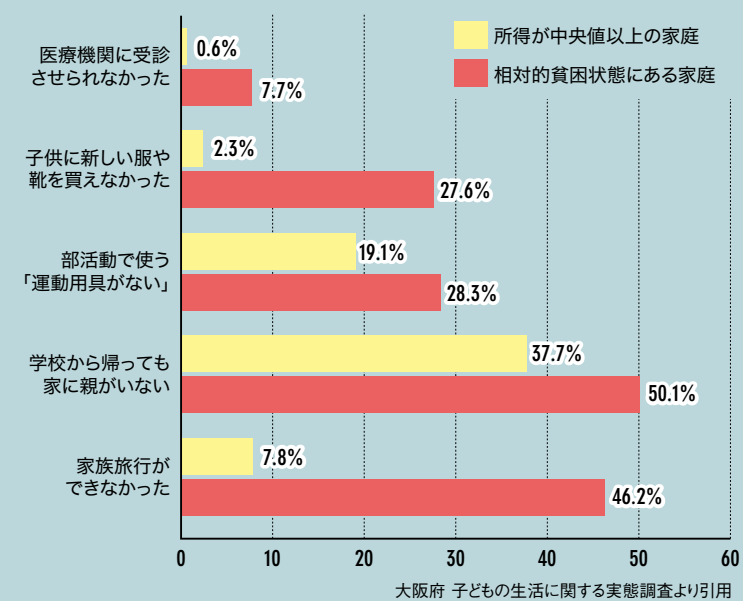
同じ経験ができないなどの状態が発生すると、徐々に嫉妬やコンプレックスに悩むようになります。貧困というと、「生きるために必要な最低限のものが不足している」というイメージが一般的に強いため、相対的貧困の状態が問題であると理解されにくい現実があります。



相対的貧困状態にある子どもが受ける影響の1つが、「当たり前
の経験」の欠如です。右の表は大阪府が平成28年度に行った、子
どもの生活に関する実態の調査結果の一部です。

格差があることは当たり前のことです。そして経済的に困難な状態でも、自分の努力で克服できる程度の格差であれば、それをバネに「がんばろう!」と思えることもあります。しかしその格差がある一定の大きさを超え、周りと同じような生活ができない状態が続くと、「どうせ僕はまた仲間に入れないんだ」「どうせ僕なんて」というように、物事を簡単に諦めがちになったり自信を喪失したりしてしまいます。1つ1つが小さなことでも、それが重なることで子どもにとって大きな影響となるのです。

教育格差がないように、その機会を与える支援もとても重要ですが、それに加えて「多くの人が当たり前に関験をしていることを経験できる環境」にいることも、子どもたちの育みには重要となります。



ルドルフ基金の対象だった保護者様の声

サンタが来たご家庭

神奈川県 Sさん（両親+子ども1人）

ケーキやプレゼントを買うためにかなり節約しないといけない暮らしをしています。
一昨年「息子が喜ぶだろうな～」と思って応募をしました。サンタが来た後はどこへ行っても「お話できるサンタさんが来たんだー!」と話していたし、今でも「また来るかな?」と期待しています。毎年呼びたいけど、家計にそんな余裕がない我が家にとって本当に助かっています。

福岡県 Tさん（両親+子ども3人）

プレゼント購入ができなかったのも、なにかいいアイデアはないかと探していました。
毎年寂しくなっていくクリスマスをどうにか楽しんでもらいたく、ケーキに見立てた食事をつくり、ロウソクをつけて、サンタさんを待って楽しみました。本心はわかりませんが昨年のクリスマスは「楽しかった」と言ってくれています。友達との会話に少しでもついていければいいなあと思っています。

熊本地震の被害に遭われたご家庭

熊本県 Yさん（両親+子ども2人）

熊本大地震を経験し、小さい体がブルブル震えるほど息子への精神的ダメージが大きかったため、余震が続く中でも、息子が楽しめるイベント、笑顔になれることを探していました。
この活動、とてもいいと思います。応援しています。もっと、いろんな人を知ってほしいですし、届いてほしいなと思っています。

サンタからの手紙が来たご家庭

長野県 Hさん（両親+子ども3人）

プレゼントは、ネットで安い物を探して、現金で買えない為ポイントでご購入していました。息子が欲しがるゲームソフトは、中古で準備したことも。
10才の娘がサンタを信じていて応募し、サンタからの手紙が届いた一昨年。我が家だけに魔法のカギが届いたのは特別だと思ったようで、サンタさんに自分のお小遣いで買った温かいお汁粉と手紙を用意していた。サンタさんを信じている純粋な子どもの為にこの活動は続けて頂きたいです

大阪府 Yさん（祖母+母+子ども1人）

残念ながら手紙でしたが、驚きと嬉しさが目に見えました。手紙の内容にもビックリしていて「サンタさんはちゃんと見てくれてるんだ!」と嬉しそうでした。
きっとどんなシチュエーションでも子どもは喜ぶはず。豪華なクリスマスパーティではなくても、綺麗なお家でなくても「サンタさんはいるんだよ、皆の所にプレゼント配ってるんだよ」って夢を与えてあげられたら最高です。どうか一人でも多くの子ども達にこの夢を届けてあげて下さいませ。素敵な企画ありがとうございます。

大阪府 Kさん（母+子ども2人）

前年までは夫が居たため、普通にクリスマスツリーにクリスマスケーキを食べ、プレゼントがもらえるのが当たり前だったのですが、母子家庭となり予算が限られる中でのクリスマスとなりました。しかし、サンタさんから手紙が届いたことで、最近是我慢ばかりさせてしまっている長女が、久しぶりに子どもらしい表情をみせてくれました。
サンタさんからのお手紙がよほどうれしかったようで、今でも大事にしまって居ます。
“いつでもサンタさんが来れるように”と、カギのキーホルダーはまだ玄関につけてあります（笑）この度は子どもたちに幸せな夢と子どもらしく過ごせる時間を運んでくださりありがとうございました。子どもたちの本当に幸せそうな笑顔を守るため、これからもっと頑張っていくと、私もやる気と勇気を頂きました。

“3千円の寄付”で、子ども1人へ思い出を届けます。

2015～16年はテスト的に実施してきたルドルフ基金の取り組みですが、17年から本格的に仕組み化をして活動展開していきます。
1人でも多くの子どもに届けていくために、皆さまからの応援を募集しています。

- ☒ プレゼントの準備不要
- ☒ その他、経済的負担はゼロ
- ☒ 日本全国の子どもに対応
（サンタからの手紙含む）

詳しくは
コチラ



この子の幸せのために
できるかぎりのことをしたい



かわづいずみ つむぎ
河津 泉・紬希ちゃん

NPO法人チャリティーサンタ理事と岡山支部代表。仕事はNPO法人岡山NPOセンターの職員として、公私ともに地域社会のために働きかける。チャリティーサンタの仲間と結婚し、現在一児の母。

親になった時、抱く我が子を見ながら、自然とこみ上がった想いです。

このような想いはどの人も変わらない一方で、様々な事情で子どもと一緒に過ごす時間が限られたり、金銭的な理由から家族の思い出をつくる暇もなく日々が過ぎてしまう家庭もあります。「当たり前」のことができない」というのは、時に親の心をグサリと刺すナイフのようです。

クリスマスに「思い出を届ける」——それはとても小さく感じられるものですが、誰もが知っているサンタクロースというスーパースターだからこその思い出は心に残り、そして多くの人をつないでくれる。始まりはクリスマスという小さな穴かもしれませんが、その穴から光が差し込むように社会と家庭がつながり、多くの人で支えあうことができるきっかけになればと思います。

どの子どもにもワクワクする家族の思い出の日を贈る日を願い、私たちはこれからも働き続けます。

ルドルフ基金 担当理事 河津 泉

私達は“クリスマス格差” “思い出不足の子ども”に気づきました。

思い出不足

母子家庭で仕事もしていて正直子どもと過ごす時間も一般家庭よりは短いです。
お金面でも余裕がなく長期休みも旅行などには連れて行ってあげられなく、思い出が作ってあげられません。
なので、サンタクロースがきたとなると、何よりの思い出になると思うのです。

愛知県 7歳と8歳の子ども之母親

2年前に夫が事故で亡くなりました。それから私は毎日フルで働き、子どもたちにはとても寂しい思いをさせています。
そんな子どもたちに、クリスマスに特別な思い出を作ってあげたいです。宜しくお願いします。
青森県 6歳と4歳の子ども之母親

私の自分勝手に未婚で子どもを産み息子を授かり6年になります。
生活していくために子どもと過ごす時間も余りなく、また周りの子ども達が持つおもちゃやおやつも満足に買ってあげる事も出来ず、でもワガママも言わず『お仕事頑張ってるね』『いつも働いてくれてありがとう。』と毎日言っているわんぱくで、でもすごく優しい息子にサンタさんと思いが作れたらいいなと思ひ応募させていただきました。どうぞよろしくお願いします。
大阪府 6歳の子ども之母親



これからも応援していきます

福島の子ども達に笑顔を！

「生きる力」を育む《福島生き×活きキッズツアー》を開催しています

東日本大震災が起きたのは、「世界中の子どもたちを笑顔にしたい」というチャリティーサンタの仕組みが徐々に評価され始めた時期でした。忘れもしない、2011年3月11日。

——「私たちにできることは何か」——全国のスタッフで考え辿り着いたのが、福島の子ども達を各地に招き、自然体験や人のつながりの体験を贈るこの活動でした。2013年の初開催時より、忘れられない体験や心に残る思い出を通じて、「生きる力」を育むためのプログラムを実施しています。原発事故の影響を受け、普段は外遊びがしにくい環境下にある福島の子ども達。自然の中で思いっきり遊び仲間と過ごす場を提供することが、子供たちの未来の原動力になると信じて…。私たちはこれからも、この活動を続けていきます。

2013年の
初開催から4年目になりました

2016年は岡山・山梨・広島にて開催！ 計29名の子どもたちが参加しました！

岡山

●地域とのつながり
～棚田ひろがる風景の夏休み！～
2016年8月9日(火)～8月14日(日)



山梨

●自然の中で育んだチームワーク
～ハケ岳の広大な自然の中で～
2016年8月14日(日)～8月17日(水)



広島

●潮風の中のキャンプ
～空と海と仲間たち～
2016年8月17日(水)～8月21日(日)



参加したキッズの声

今もまだ参加できる妹がうらやましい！ 特別な思い出ができました

福島が東日本大震災の放射能の影響で外で遊べなくなっていた時に参加したこのツアーでは、外でたくさん遊んだり色々な人と交流ができたりと、福島ではできなかった体験ができました。一番心に残っているのは、お祭りでのスカイランタンです。スカイランタンが空一面に舞い上がる様子は何回見ても感動的でした。私は3回このツアーに参加して、たくさんの思い出ができました。毎年少しずつだけ成長もできたように思います。去年からは妹たちだけが参加するようになりましたが思い出話を聞いて、うらやましくさみしい気持ちになりました。それくらいこのツアーは私にとって特別なものになっています。楽しい貴重な体験をさせてくれたスタッフの皆さんには心から感謝しています。もう少し大人になったら、私も何かの形でぜひ恩返ししたいと思っています。

中学2年生 佐藤李花さん(李花さんが小学校4～6年時に参加)



この活動がきっかけで
私たち、結婚しました！

今は子供たちと訪れた
上山に引っ越し
生活をしています。

今なお残る「自然体験の必要性」
東日本大震災から6年が経ちますが、今でも子ども達に安心な「遊びの機会」を望む声が多く届いています。住宅地の除染が進む一方で子どもたちの遊び場だった森林や草むらの除染までは十分に手が回っていない実情がある中、「安心して自然の中で遊ばせたい」「子ども達を遠くへ遊びに連れていきたいが、家計を支えるために仕事を休むことができない」といった声が聞かれます。震災から年月がたつなかで、支援の手も少なくなっているからこそ、《福島生き×活きキッズツアー》を続ける必要があると私たちは考えています。クリスマスに集まった寄付により実施ができた2016年のツアー。2017年も引き続き実施、開催予定です(一部助成金を使用予定)。一人でも多くの方にまだまだ必要な支援があることを知っていただき、今後子ども達の心に寄り添っていただければ幸いです。

【Q6】親に次いでお子さまが受け取るプレゼントは誰からのものが多い？(2015年)



サンタを通じて、ネパールのお母さんたちの夢を叶える

Santa Mothers' Dream プロジェクト

2016年、ネパールの子ども達の教育支援をする目的で始まったプロジェクト。

Santa Mothers' Dream というプロジェクト名には「母親たちの夢が子どもたちの将来のためにいい教育を受けさせること」という意味が込められています。

ネパールのお母さんがフェルトマスコットを作成することで、現金収入を得て、子どもが継続的に学校に通える形を目指しています。

今は、町のお母さんたちが作っていますが、仕事が少ない農村部のお母さんたちも作れるように、本商品の収益を使いプロジェクトを広げていきます。

【チャリティーサンタ×ネパールの4年間の歩み】



① サンタ衣装生産開始 (2013年8月)



② 有志で現地の学校訪問 (2014年2月)



③ 農村部でコーヒー栽培を行う日本人と意気投合し、新プロジェクトが発足 (2014年2月)



④ 村の子どもたちとコーヒーのラベルのデザインをつくるワークショップ (2015年3月)



⑤ チャリティーサンタブランドのネパールコーヒー完成 (2015年6月)



⑥ ネパール地震支援ツアーに参加し、ネパール人の MINA と出会う (2016年4月)



⑦ MINAの想いに触れ、Santa Mothers' Dream プロジェクト発足 (2016年5月)



⑧ 連携可能なネパール現地のフェルト工場の調査 (2016年6月)



⑨ 日本人デザイナーのchaiさんにデザインを依頼 (2016年6～7月)



⑩ サンタ・トナカイ・ツリーのサンプル作成開始 (2016年7～9月)



⑪ ネパール⇄日本で空輸でのサンプルチェック (2016年7～9月)



⑫ 町の工場のお母さん達の手によって生産開始 (2016年9月)



⑬ 日本で限定200セットで販売し、完売(2016年12月)



⑭ 農村部での生産体制についても計画中 (2017年現在)

*2016年実績

日本でのサンプル作成、ネパールでの商品づくりに挑戦。テストマーケティング的に日本でのオンライン販売を実施。限定200セットが8日で完売。2017年は、さらに新商品を加えて、より多くの人に手に取ってもらえるよう販路の開拓中(販路の紹介など大歓迎です)

*なぜネパールなのか？

チャリティーサンタのメンバーがネパールと繋がりがあり、サンタ衣装をネパールで作り始めたのがきっかけでネパール支援が始まりました。2014年からサンタ衣装の作製を開始し、毎年有志で現地を訪問しています。

*Mina プロフィール

名前：Mina Lama (ミナラマ) 1991年生まれ。ネパールのシンドゥーバルチョーク郡ラムチェ村出身。自身も経済的に恵まれぬ環境の中で、勉強を続け大学に進学。現在も家族のために働きながら大学に通う。※シンドゥーバルチョーク郡は、2015年の大震災で最も大きな被害があった場所のひとつ。

きっかけは私が作っていた“小さな羊毛フェルトのサンタさん”でした。チャリティーサンタの存在を知り、仕事も子育てもしていない自分が「社会に貢献出来ることを見つけた」と思いました。それから私の作品の売上の一部を寄付することにしました。年に一度のほんの小さな寄付♡だけど、チャリティーサンタの活動はそれをしっかり繋げて広げて届けてくれます。そして SMD の活動で更に♡が広がっていることを実感しました。それぞれの場所で、繋がって、繋がって、♡が広がっていくその中に自分に出来る大切な役割があることにとても感謝しています。

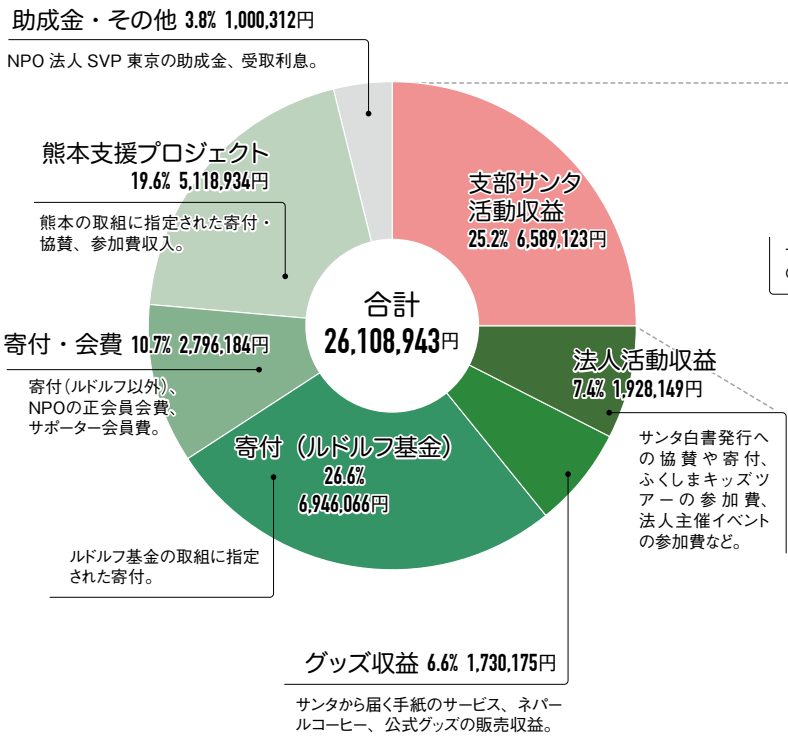


デザイン協力
chaiさん

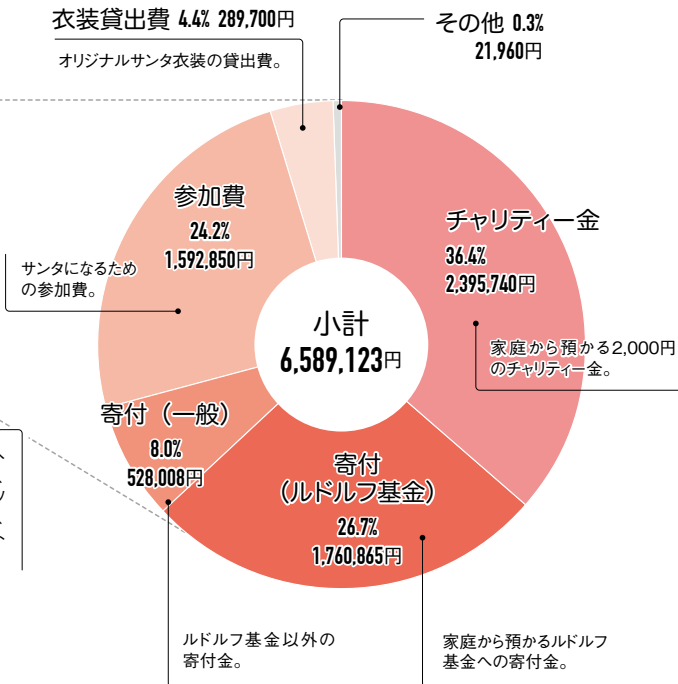
【A5】こたえは1.9個。両親からの分とは別に「サンタクロースから」と分けて渡すパターンもあるようです。

2016年度収支報告 (2016年6月1日～2017年5月31日)

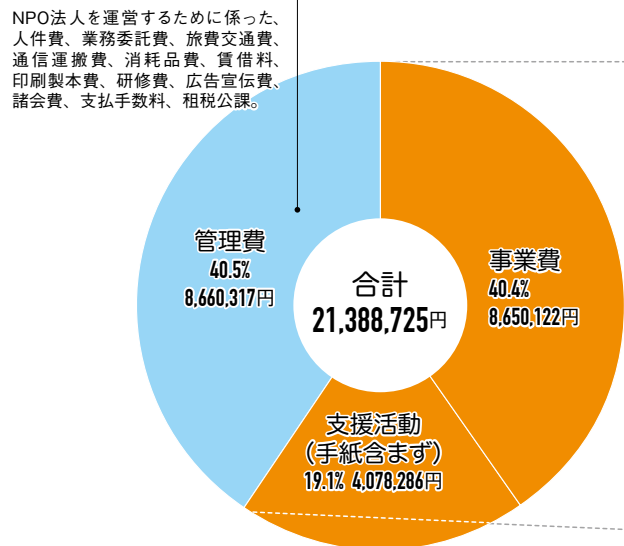
NPO法人収益 (全体)



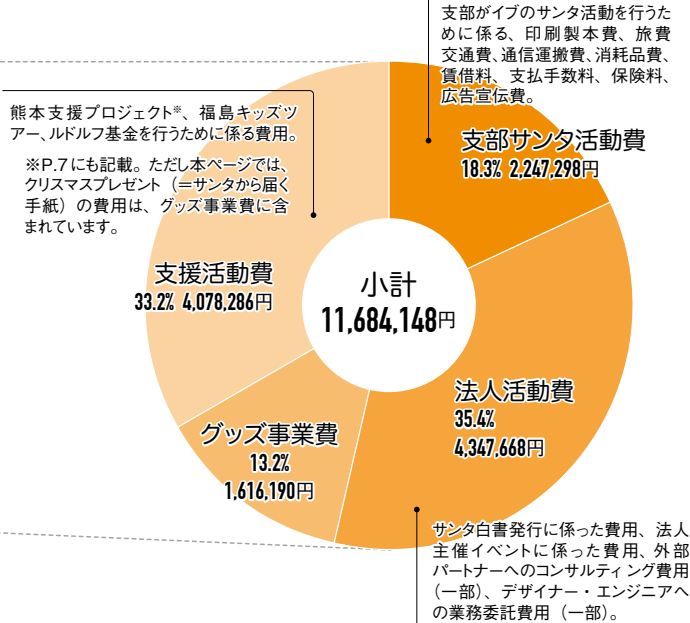
支部サンタ活動収益の内訳



NPO法人支出 (全体)

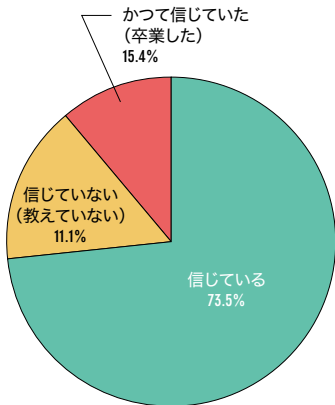


事業費・支援活動支出の内訳



※上記の収支報告は、限られた紙面の中で、なるべくわかりやすく項目を分けて、記載している情報です。NPO 法人としての正式な会計報告については、内閣府 NPO ホームページならびにチャリティー サンタ公式 Web サイトでの報告をさせていただきますので、そちらをご参照ください。

あなたのお子さんは
サンタクロースの存在を
信じていますか？ 回答数 2062

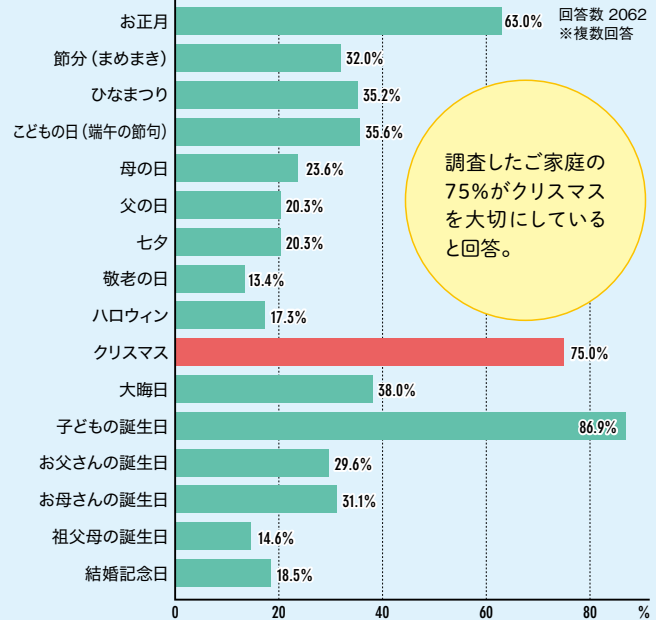


全体の73%がサンタクロースの存在を信じていることがわかった。これは、お子さまをもつ親世代(20～30年前)とほぼ同じ結果！

サンタクロースを信じる子どもの割合は、
今も昔も変わらない！

誕生日に次ぐ大切なイベント「クリスマス」

親子(家族)のイベントとして大切にしているものはなんですか？



2008年から累計で1万人以上の子どもにプレゼントとサンタとの体験を届けてきた中で、家庭や様々な事情からプレゼントがもらえない子どもがいる事に気づきました。そんな「子どもたちのクリスマス格差」を世の中に発信するために、日本で初めてとなる「子育て家庭におけるクリスマスやサンタクロースへの関わりを調査＆分析したものを「サンタ白書2016」として発行致しました！

日本のクリスマスとサンタクロースに関する 調査データをまとめた

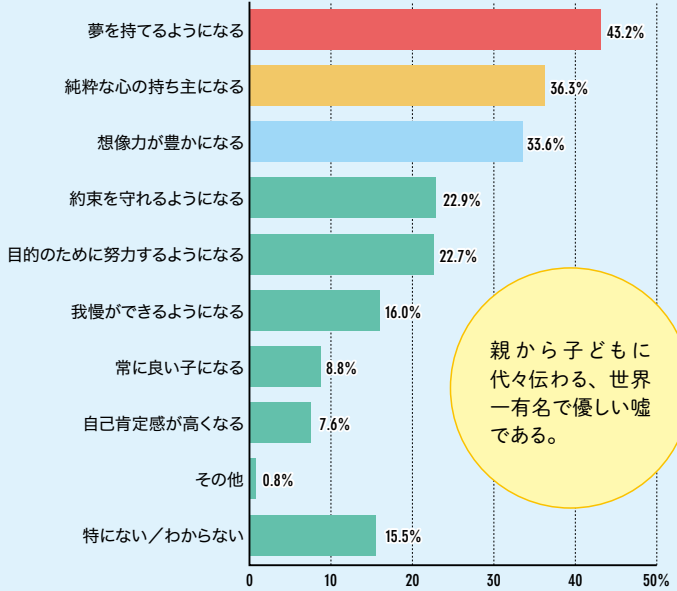
サンタ白書2016 発行

定価：本体2,000円(税込)
判型：B5版

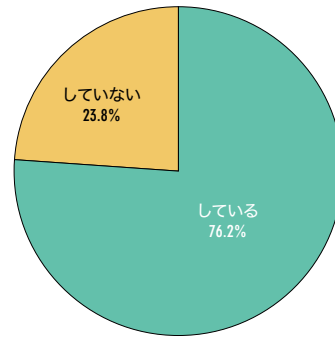
購入は下記URLより
<https://goo.gl/i30UMN>

親がサンタクロースを信じさせるのは 「夢」「純粋な心」「想像力」を育むため

サンタクロースが来ることは、
あなたのお子さんにどのような影響があると思いますか？ 回答数 2062 ※複数回答



そのしつけの効果については、「クリスマス直後まで」ということもわかった。



サンタクロースを懐(しつけ)や約束に使っていますか？
(例)良い子にしないとい
サンタさんは来ないよ。回答数1507

76・2%の親が
子どものしつけに
サンタクロースを活用

世界だけでなく 日本でも、経済効果に大きな影響力を与えるクリスマス。子どもを持つ家庭にとっても最も重要なイベントとして位置付けられているが、「楽しいイベント」というだけでなく、「夢を信じる力」「自己肯定力」「しつけ」など様々な効果が期待されています。クリスマスプレゼントは、家庭の経済格差があっても購入金額はあまり違いがなく子どもが欲しい物を買っていることが分かりました。しかしながら、「ひとり親」や「家族の健康問題」など様々な問題を抱える世帯年収の極端に低い家庭になると、クリスマスは何もしないという「子どもたちのクリスマス格差」も見えてきました。

目標
200人

NPOチャリティーサンタは、応援団 “TEAMトナカイ” を絶賛募集しています！



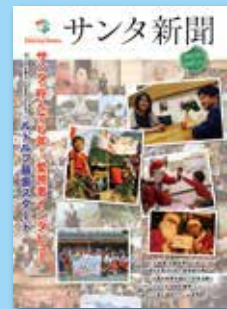
TEAMトナカイに入ると…

あなたには

- ①活動報告
(サンタ新聞／最新情報メルマガ)
- ②“あなたもサンタ” 認定カード
- ③会員特典グッズ

チャリティーサンタには

- ①継続的な応援会員
- ②その時一番必要な取組に会費を活用
- ③会員アンケートで声を募集・改善



【活動報告】



【サンタチケット】



【オリジナルグッズ】



東京都 野原さん

私はサンタは親である事を早々に伝えられていました。幼少期にサンタを信じて夢を抱いていたらどんな感じだったかな、私の子どもはどう思うかなと興味が湧きました。

そして様々な状況のご家庭にチャリティとしてこの笑顔を届けることができることを知り、チャリティーサンタの画期的な取

り組みに感動、絶対に応援したい！ と思いました。

サンタが我が家へ来た時の我が子の満面の笑みとはしゃぎっぷりを見て、子どもの感性の豊かさ、素直さを間近で感じることができました。この驚きと楽しい体験を忘れないと思うし、夢を持つことの楽しさを感じてくれていると思っています。

「とっても面白い子がいるので、一度会ってほしい!」と言われ、紹介されたのが、チャリティーサンタ代表の清輔さんでした。

私自身、親孝行できずに亡くなった母の代わりに「1人でも多くのお母さんたちに貢献したい。そして、子どもたち・孫たちの世代まで安心と余裕をつなげたい」

という想いで活動しているので、チャリティーサンタの活動にとっても共感を覚えしました。

サンタ活動がそうだったように、最初は1人の動きでも、支援が支援の輪を生みだすと信じています。1人でも多くの方がより良い世の中にしていこう、という「願い」を込めて今回寄付させて頂きました。



埼玉県 前園さん



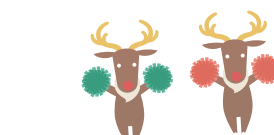
東京都 井上さん

大学4年の夏に出会ったチャリティーサンタ。「もっとサンタさんに近づきたい」「子どもたちは喜んでくれるかな?」色んなことを考えながら、仲間たちと一緒にクリスマスに向けて準備をした数ヶ月。今思えば、あれほど本気になって取り組んだことはなかったと思います。

サンタクロースは存在しないものと思われ

ていますが、違います。サンタはいるんです。誰かの幸せを願って、真摯に向き合う人たち。

社会人になった今は、仕事の都合でクリスマスはサンタクロースになれません。その代わりに、子どもたちのために頑張ってくれている顔も見たことがない仲間たちへのエールを込めて「応援したい」と思ってチームトナカイに参加しました。



TEAMトナカイ限定!

今、私たちが最も必要としているのは、TEAMトナカイ(=応援会員)です。「チャリティーサンタを応援してみてもいい」という想いが少しでもある方は、ぜひ以下のQRのコードから、TEAMトナカイの紹介ページをご覧ください。詳細を含めて、既に応援いただいている方のコメントも掲載しています!



詳細&申込

- ☒ よくある質問
- ☒ 申込の流れについて
- ☒ 会員特典について



ご寄付で応援頂いた皆さまのご紹介

～あなたも誰かのサンタクロース～

4,500人の子どもに夢を届けたチャリティーサンタの活動は、皆さまの寄付のおかげで成り立っています。

※2016/6/1～2017/5/31の期間に寄付頂いた方が対象です。
※メールでのご案内に対して、掲載可能（掲載希望）の回答いただいた方のみ記載しています。掲載を希望されなかった方は、記載していません。

TEAMトナカイの皆さま

- 鈴木大互 ●野曾原誉枝 ●北村大樹 ●塚田ゆみ
- 柏木秀行 ●ラスカル ●koguma

一度のみ寄付頂いた皆さま

永松勇人／船川諒／高木香織／池貴子／徳野元弘／嶋津幸男／眞田賀代／高橋ライチ／重松和佳子／栗原崇・さゆり／田中正和／たかいたかこ／丸山泰／小林由希／新田直美／森隆徳／寺澤征洋／白井志重／荒井美津恵／岸田喜代子／北村大樹／株式会社あらびず／LLP森と水源地の縄文トラスト新夷／東出融／東出景子／キセキ・都丸たか子／坪井秀明／

坂根真理／伊藤文弥／櫻井基樹／松成淳一／中村俊介／坂本梨恵子／岡部友理子／山中美菜子／三宅美絵子／村田朝子／福島保／川口桜称絵／上野貴史／渡部光／林多鶴／飯島夏樹（博士）／その／？／C S／じゅんちゃん／宮っち／小桃堂 いくとうひさよ／雄太 K／はなそよ／もちゆか／鈴ちゃ

ん／あおちゃん／百恋／じんべい騎士／オタンコなすび／Greco／鯖太郎／Kohei Iwanami／三好かすみ／☆Kboys☆／まさかず／マツダヨウコ／親子サロンマシュマロ／みーあ／はち／N.K．／A.N．／K.I．／M.O．／A.H．／y.h．／N.H．／F.A．／R.K．／K.T．／m.k．／M.I．／T.Y．／M.N．／M.K．／A.S．

正会員の皆さま

- 河津 泉 ●森谷伸樹 ●古舘孝敏 ●清輔夏輝
- 城田正樹 ●岡崎巧 ●トん佐藤

企業・組織の皆さま

- FITチャリティ・ラン ●株式会社東京スター銀行 ●株式会社リアライズ
- シングル10株式会社（屋号：1人暮らし不動産） ●株式会社スピカズ
- 株式会社カーツメディアワークス ●チャリティーよさこい実行委員会
- 医療法人ひがし歯科医院 ●チーム熊本 ●香福寺
- 2030SDGs 体験会 at 福岡参加者一同

連携サービスなどを通じてご協力頂いた皆さま

- ヤフーネット募金 ●CAMPFIRE ●かざして募金 ●グッズ購入

“全国へ” 私たちが届ける“2つ”の手紙

全国へ届ける手紙

毎年クリスマスに日本中の子どもに届ける「サンタからの手紙」

目的（住んでいる場所に関係なく）
すべての子どもに夢と思い出を届ける

対象 日本全国の子ども（どこでも申込可能）

特徴 オリジナルのメッセージの挿入可能、寄付つき、魔法のカギつき、保護者向け手引書もセット

熊本で地震を経験した子ども1,172人に勇気を届けられました。



突然のことひっくりしめたかな？
これからする告白は、あのクリスマスの日のできごとです。

大人の仲間になったキミに、あの日のことを話す時がきました。
こころの準備はいいですか？さあ、はじめましょう！

2016年12月24日。キミはサンタに会ったことを覚えていますが？
そう、ワタシはあの時の「サンタクロース」。
あの日、キミの家族がキミを喜ばせようとワタシにプレゼントをたくして
それを持ってキミに会いに行ったのです。

でも…実はあれは1軒いくらかのチャリティーをもらうことで、キミだけじゃなく、
東北や熊本の子どもたちも笑顔にしよう、というチャリティーの企画だったのです。

それを「ステキだね」って言ってくれたキミの家族が
ワタシたちを呼んでくれたというわけです。

キミの家族が、キミとだれかのしあわせを願ってくれて、
クリスマスにはたくさんさんのチャリティーがあつりました。
そして、そのチャリティーで東日本大震災、熊本地震を経験した子どもたちに
「未来への希望」と「笑顔」をプレゼントすることができました。

キミがこの手紙を読んでいる頃には、
あの子どもたちも、未来をつくる若者として成長しているでしょう。

サンタがキミのおうちに来たあの日。
キミの家族や、実はキミ自身が、東北や熊本の子どもたちのサンタになっていたのです。

キミを喜ばせたいと願う家族、そしてなによりもキミがいたから
世界中の子どもたちへ「笑顔というプレゼント」を届けることができました。
本当に、本当にありがとう。

今キミにとってサンタクロースはどんな存在ですか。
ワタシはキミのサンタになって、
キミとキミの家族や東北や熊本の子どもたちと出会えて気づきました。

「だれかを笑顔にしたいって気持ち」が「サンタクロース」なのかもしれないって。
大きくなったキミへ 2016年のサンタクロースより

未来へ届ける手紙

数年後の未来に「サンタクロースの真実」を伝えるための手紙

目的 いつかサンタを信じなくなった時に
“チャリティーサンタの考えるサンタ”を伝える
すべての子どもに夢と思い出を届ける

対象 支部の活動エリアにおいて、
サンタ訪問活動で届けた子ども

特徴 活動報告書（本誌）と共に
同封して各家へ送付しています。

活動開始から9年。
かつての子どもがこの手紙を読み、
サンタになる側として
参加する若者も
現れはじめています！